

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200332		
法人名	有限会社 太陽		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字寄人1997-1		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年3月9日	外部評価確定日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年を取っても、その人らしく、住み慣れた環境の中で生活出来る様にと考えながら日々の介護を実践しています。当ホームは自然に恵まれた環境の中にあり、長い間、この佐賀の自然の中でたくましく生きて生活して来られた高齢者の方々にとって環境を変えることなく、田畑の見渡せるこの地で日々の生活を楽しく、又張りのあるものとして送って頂けたらと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、のどかな田園地帯の集落の中にあり、黄色の外壁がひときわ目を引いている。周りには、併設の宅老所や複数の通所介護施設等を有しており、それぞれの機能を活かした連携が図られ、在宅サービスの拠点にもなっている。事業所の側には、代表者の自宅もあることから、近隣住民との交流も日常的に行われており、地域密着型としての定着に繋がっている。職員は安全・安楽・安心をモットーに、利用者が持てる力を十分に発揮して笑顔で暮らせるケアに取り組んでいる。職員を基準より多く配置したり、認知症実務者研修や各種研修会等へも積極的に参加をし、サービスの質の向上を図っている。外部評価の課題改善にも速やかに取り組んでおり成果が見られる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人権を尊重した理念を掲げ、事業所内に数箇所設置し、毎日職員は理念の提唱を行なっている	利用者が住み慣れた地域で、安心して暮らせることを目指した理念を掲げている。日々の朝礼時には理念を唱和し意識づけを図っている。会議では、代表者や管理者が理念の内容について話すこともある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議により地域の方の協力要請や地域のお祭りへの参加、毎日の散歩による近隣の方々との会話、野菜類の提供など多くの触れ合いがある	日常的に近隣住民の訪問や散歩での出会いがあり、利用者共々、親しく挨拶や会話を交わしており、野菜等の差し入れを頂くこともある。地域の祭りや季節ごとの行事へも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の出身であり、日頃の会話や、地域行事の参加、資料の配布などにより認知症の人の理解を深めるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、様々な意見を聞くことにより、日々の介護に反映している	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者の家族や地域及び行政の代表者等の参加を得て開催されている。会議では、事業の報告や課題等について話し合ったり、認知症や健康に関する講話を行っている。参加者からは有意義な助言や意見等が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な連絡体制や、研修への参加、必要時は相談などの行き、運営推進会議への参加もしていただき協力体制をとっている	担当者とは顔を合わせる機会も多く、気軽に情報交換や相談等ができる協働関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加や、マニュアルの検討など施設内でもスタッフ間で情報の共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関も屋間は施錠しておらず自由に出入りができ、職員が目配り気配りで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加により、スタッフ間の意識の徹底を実践している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での学びをスタッフ全員行なっているが、現在活用する事例が無いため実践はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者時に、本人様及びご家族様に管理者より説明を行い、ご理解をいただいた上で契約を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族会への参加、又日頃の面会、外出時などに意見を伺い、玄関にはご意見箱も設置している	面会時や運営推進会議、家族会等機会あるごとに繰り返し声をかけ、気軽に何でも言ってもらえるように配慮している。出された意見や要望等には速やかに対応している。玄関には意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングの中で意見の交換を行い、介護の実践に繋げている	管理者は日頃から職員との意思の疎通を図り、要望や意見等を聞くように心がけている。また、代表者も職員会議等で職員の意見や提案等を十分に聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議の開催などにより現場の意見を聞くことにより、より良く、介護の実践が行なえるように検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が定期的に研修会へ参加し、施設内で研修報告を行い、日々の介護に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、情報の交換などを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当法人ないにあるディサービスを利用された方の入所が多く、ある程度の信頼関係が築かれた中で入居されている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご本人様の要望及びご家族様の要望、などゆっくりと聞き、その上で入居されている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでのケアマネジャーさんからの情報や、本人様の必要としているサービスのアセスメントを行い、ケアプランに反映してサービスの実施を行ないます		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の人権を尊重しつつ、残存機能の維持に努めながら、出来られることの支援を行なっています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会での会話や面会時の会話の中で、家族と共にその方に必要な支援を考えています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他者との連絡や電話などの支援など本人様の気持ちに沿った対応を行なっている	職員は馴染みの人や場所等を把握しており、利用者の意向に添って電話での会話や面会を依頼したり、自宅等の馴染みの場所へも一緒に出かけたりしている。遠方の馴染みの方には、年賀状をとおした関係の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は常にフロアーで過ごされることが多く、夜間の睡眠時及びお昼寝の時に居室に戻れることが多く、孤立されることはありません		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	信頼関係の構築が築かれていることが多いため、相談が有ればいつでも対応できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の意志を尊重し、その人らしくと考えながら日々の介護に取り組んでいます	日常生活の中の会話や利用者の行動、表情等から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の収集に努め、反映させている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの中に取り入れて介護を実施している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人一人にスタッフが担当を持ち介護計画の作成や近況報告の作成を実施し定期的な見直しを行なっている	本人と家族の希望や意向をベースに関係者で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。毎日、利用者一人ひとりのサービスの実施状況を確認し、3ヶ月毎の評価と見直しを行っている。体調の変化時には臨機応変に見直し、現状に添った介護計画で支援して	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても、その状況が分かるような記録方法を取っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を重視した介護の実践に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、生活保護を受けながら生活されている方の支援を行なっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の内科医の往診があり、その他定期的な精神科への受診、緊急時の対応など実施	以前からのかかりつけ医や本人・家族の希望される医療機関の受診がなされている。通院は基本的に家族の付き添いとしているが、必要に応じて職員が介助することもあり、適切な受診ができるように支援している。それぞれの医療機関との連携も良好である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であり、常に介護士と共に情報の共有を行い医療的措置を行っている、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が常勤であり、またケアマネージャとの兼務であるためソーシャルワークも行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までに、3名の看取りがあったが、常に状況の説明を行い、また医師からの説明など、状況に応じた対応を行なっている	利用開始時に看取り介護に関する指針を説明し、意思の確認を行っている。重度化や終末期の対応時には、随時、医師や職員が状況を説明し、本人や家族の気持ちに添った支援を行っている。これまでに3名の看取り支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に応急処置が行なえるように、訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制づくりや防災訓練など定期的の実施している	年に2回、昼夜の火災を想定した消火・避難訓練を実施している。近隣住民に対しては、災害時の避難協力を口頭では依頼しているが、訓練への参加協力を得るまでには至っていない。	避難体制の強化を図るためには、消防署や地域住民の参加協力を得た訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアの実践に取り組み人権の尊重を念頭に置きながら介護している	理念にも人権の尊重が謳われており、利用者一人ひとりの人格とプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。排泄や入浴の支援においては、特に気配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を構築する中で、その人らしくの実践が行なえる様に日々検討しながら介護している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアの実践に向けての取り組みを少しずつ検討中です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい支援を行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握し、又、残存機能の維持につとめ準備、後片付けなど、していただく	利用者の力量に応じて、食材の下ごしらえや味見、後片付け等を一緒に行っている。食事の時は、職員も利用者と同じものを食べている。献立には利用者の希望も取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給や食事量、形態など個別に考慮して調理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。介助が必要な人は介助を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で出来る方が多く、介助が必要な人は、時間的誘導や必要時に介助を行っている	排泄のパターンや利用者の力を活用し、全員をトイレでの排泄で支援している。おむつ着用から自立された方もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便を把握し、対応をしているが便秘時は運動や食事の工夫を行い、必要時は内服の使用を考慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は、週に3回と決められた曜日と時間帯にて入浴している	基本的には週3回の入浴であるが、本人の希望にも配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の状態に応じた対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が内服の支援を行なうので症状の変化の報告ができています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の好きなことをしていただけるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、デイサービスの行事への参加、家族との外出など、支援している	日常的に散歩をしたり、同一法人のデイサービスの行事や四季折々の花見、地域行事等への外出もなされている。法事や個別の希望による外出は家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかり金銭感覚のある人は自分でお金を持たれているが、出来ない方の分は施設が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望により常に支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅環境は、高齢者様が快適に過ごせるように常に環境整備を心がけている	玄関や居間等の共用空間には、家庭的雰囲気のある家具や調度を設置し、季節の花や季節感のある飾り付けもなされている。台所に近い居間には、調理の音や匂いが届き生活感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに、自分の座る場所が自然と出来られて、いつの間にか話の合う人と会話されていたり、自分の居場所で居眠りをされたりと、ほほえましい光景が多いです		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに自分の居室にたんすを置かれたり、好きなものを飾られたりしています	職員は家族に対して、利用者の使い慣れた馴染みの品の持込を勧めている。鏡や家族の写真、観葉植物、整理たんす等が見られる居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが支援しながらも、ご自分なりの残存機能を活かした生活をそれぞれに送られています		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない